

船舶事故等調査報告書

平成27年2月5日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014神第66号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成26年3月16日 07時10分ごろ
発生場所	福井県越前町越前漁港（厨地区）厨防波堤 越前町所在の越前港道口沖防波堤南灯台から真方位147°270m付近 （概位 北緯35°55.8′ 東経135°59.7′）
事故等調査の経過	平成26年6月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 第五十八大勝丸、91トン
船舶番号、船舶所有者等	127366、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、五級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	船首船底部に凹損、左舷船首ブルワークに凹損
事故等の経過	本船は、船長ほか5人が乗り組み、船長が操業を終えた乗組員を居室で休ませて単独で船橋当直に当たり、越前漁港北西方沖を自動操舵として南東進していた。 船長は、椅子に腰を掛けた姿勢で眠気を感じていたが、入港まで約15分となり、それほどの眠気ではないと思って航行を続けていたところ、居眠りに陥り、平成26年3月16日07時10分ごろ、厨防波堤の消波ブロックに乗り揚げた。 船長は、乗り揚げた衝撃で目が覚め、機関を直ちに後進にかけて自力で離礁し、約10分後、越前漁港の係留地に着岸した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南、風力 2、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の末期、波高 約1m
その他の事項	船長は、本事故の前々日の夕刻に出港し、約10回の操業を終えて帰航中であり、疲労を感じていた。 船長は、設定温度を28℃としたエアコンと電気ストーブを使用し、操舵室の扉及び窓を閉め切っていた。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象等の関与	なし
判明した事項の解析	本船は、越前漁港北西方沖を自動操舵で南東進中、単独で船橋当直中の船長が居眠りに陥ったことから、厨防波堤の消波ブロックに乗り

	<p>揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、前々日の夕刻に出港し、約10回の操業で疲労が蓄積していたこと、及び暖房器具を使用し、間もなく入港できる状況で安心したことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、越前漁港北西方沖を自動操舵で南東進中、単独で船橋当直中の船長が居眠りに陥ったため、厨防波堤の消波ブロックに乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・単独で船橋当直中、眠気を感じた場合には、椅子から立って身体を動かしたり、窓を開放して外気に当たったりして、居眠り運航の防止に努めること。</li><li>・状況に応じ、他の乗組員と当直を交替したり、2人当直とすることも考慮すること。</li></ul>